

第二十二回
參議院大蔵委員會會議錄第三號

昭和三十年三月三十日(水曜日)
午後二時四分開会

山居集の序

理事

奇木
一男君

- 国債競馬特別会計法を廃止する法律案（内閣送付、予備審査）
- 期限の定のある租税に関する法律に
つゝき当該期限を変更するための法律案（内閣送付、予備審査）
- 国債整理基金への繰入及び補助金等
に関する特例の期限を変更するため
の法律案（内閣送付、予備審査）

○岡三郎君 簡単に一つ二つ質問した
特別会計法を廃止する法律案（予備審
査）、期限の定のある租税に関する法
律につき当該期限を変更するための法
律案（予備審査）、国債整理基金への
繰入及び補助金等に関する特例の期限
を変更するための法律案（予備審査）
以上三案を一括議題として、前回に引
続き質疑を行います。

機製造業、化学工業、ゴム工業、織業、鐵
織維工業、製紙工業、パルプ工業、飼
料工業、酪農業、運輸業、電氣業、
うこうこうだ、一応日本經濟の自立に
一番密接な関係があると言ひますか、
緊要性のある業種に使われる機械でな
ければならんということを先ず第一義
に限定しております。そういうふうな
限定の下に今度はいろいろな機械を列

たつらで、今後国内においであるこれら
の問題についていろいろと紹介が続けられ
て行くものもあると思うのですね。そういうふうなことから、国内の
こういう機械生産というものを発展する
意味においても、こういうものが不足す
えず加除訂正されて行く必要があるのじ
やないかと思ひますが、そういう点
はどうですか。

○国富競馬特別会計法を廃止する法律案（内閣送付、予備審査）
○期限の定のある租税に関する法律につき当該期限を変更するための法律につき当該期限を変更するための法律案（内閣送付、予備審査）
○国債整理基金への繰入及び補助金等に関する特例の期限を変更するための法律案（内閣送付、予備審査）

○委員長（青木一男君）これより大蔵委員会を開きます。

最初に調査承認要求に関する件についてお詫びいたします。

現下の諸情勢にかんがみ、今国会におきましても、從来行なつて参りました金融問題、租税行政の問題、その他、本委員会の所管に属しまする諸問題につきまして調査を行う必要があると考えられますので、議案審議の見通し等とも考え合せまして、この際、議長に対し調査承認の要求を行ひたいと存じますが、御異議ございませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（青木一男君）御異議ないと認めます。つきましては、議長に提出する調査承認要求書につきまして、その内容、手続等を委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議でございませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（青木一男君）御異議ないと認めます。つきましては、議長に提出する調査承認要求書につきまして、その内容、手續等を委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議でございませんか。

○岡三郎君 簡単に一二つ質問したいと思うのですが、賛税税率法の附則第五項に重要機械類の免税をしているわけですが、この重要機械類といふのは一体どういうやうなものか、これを御説明願いたいと思うのです。

○説明員（崎谷武男君）重要機械類と申しますのは、現在、数にいたしまして三百五十ございます。それで、いずれも法律上条件がついておりまして、日本の経済自立に役立つ産業に使うもの、それから新式その他、高性能の機械で、日本で製造が困難であるもの、こういう法律上の条件がついております。

○岡三郎君 具体的に言つと大体どんなものですか。

○政府委員（渡邊喜久造君）もう少し補足して説明したいと思いますが、法律上の制約は今業務課長から申した通りでございまして、この法律上の条件に叶うものにつきまして、一応重要機械類の賛税免税に関する政令というものが出ておりまして、そこで業種を先ず第一に限定しております。鉄業とか

機製造業、化学工業、ゴム工業、電気業、織維工業、製紙工業、バルブ工業、粉工業、酪農業、運輸業、電氣業、ういうふうに、一応日本經濟の自立に一番密接な関係があると言ひますか、緊要性のある業種に使われる機械でなければならんということを先づ第一義に限定しております。そういうふうな機械の下に今度はいろいろな機械を列举してござります。例えばマイニングの関係で申しますとこれはまあ採鉱、選鉱、及び土木といふような事業をまず選定、指定しまして、その場合におきましては試錐機、これがやはり一応の限定がござりますが、そういうものが入っております。それからコールカッターのうちで、特に国内ではできなくて外国で相当進歩したものがある「コールカッターのうちカッターロード」(四段以上のシップを有するものに限る)及びシユネルホーベル、といったような名前で指定になつております。それからコンウェイショベル、非常に詳細な表ができておりますし、これはどうも詳しくは私……、あるいは技術のほうから説明さしたほうがいいと思ひますが、まあどういふうにこれが実は政令できめられておりまして、これに該当しますものが今的重要機械の免税の条項に入つて参るのであります。

について、今後国内においてもこれら
の問題についていろいろと議論が繰り
返されて行くものもあると思うのです
ね。そういうふうなことから、国内の
こういう機械生産というものを奨励す
る意味においても、こうしたものが絶
えず加除訂正されて行く必要があるの
じゃないかと思いますが、そういう点
はどうですか。

○政府委員(渡邊喜久造) その点は
全くおつしやる通りでございまして、
我々も同じように考えております。從
いまして、当初に一応重要機械として
免稅して入って参りましたものが、そ
れがあま一応モデルのようなものにな
りまして、国内에서도それが順次生
産されていくようになると、もう輸入す
る必要がない、こうしたことになりますと
輸入の方が安いかもしませんが、そ
のために関稅があるのでござりますか
ら、從いまして、そういう国内生産が
もうすでに可能であり、もう外国から
輸入する必要はない、こういうものは
逐次落しております。そのかわり科學
技術の進歩がありまして、今まで表に
載つておりませんけれども、しかしながら
度こうじう機械が入って来るで、こ
れは国内生産からみましても、ちよつ
とこれは金との関係を抜きにして、國
内ではいいものはできない、こうじう
ものが参りますと、やはりそれを追加
して載せていく。年に何回か頻繁に一

○調査承認要求の件	本日の会議に付した案件	説明員	大蔵省主税局税務課長	関部業務課長	事務局側	大蔵省主税局長	大蔵省規課長	大蔵省主税局長	大蔵省主税局長	大蔵省主税局長	大蔵省主税局長	大蔵省主税局長	政府委員
秀夫君	青柳	眞一君	岡崎	木内	白井	藤野	宣澤	小林	岡	中川	幸平君	三郎君	政夫君
青柳	岡崎	四郎君	木内	勇君	繁雄君	喜一君	政夫君	三郎君	中川	幸平君	正示啓次郎君	正示啓次郎君	大蔵省主税局長
秀夫君	眞一君	岡崎	木内	白井	藤野	宣澤	小林	岡	中川	幸平君	正示啓次郎君	正示啓次郎君	大蔵省主税局長
委員会を開きます。	最初に調査承認要求に関する件についてお詰りいたします。	現下の諸情勢にかんがみ、今国会におきましても、從来行なつて参りました金融問題、租税行政の問題その他、本委員会の所管に屬しまする諸問題につきまして調査を行ふ必要があると考えられますので、議案審議の見通し等とも考え方をせまして、この際、議長に対し調査承認の要求を行いたいと存じますが、御異議ございませんか。	「異議なし」と呼ぶ者あり	○委員長(青木一男君) 御異議ないと認めます。つきましたは、議長に提出する調査承認要求書につきまして、その内容、手続等を委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議でございませんか。	「異議なし」と呼ぶ者あり	○委員長(青木一男君) 御異議ないと認めます。よってさように決定いたしました。	○委員長(青木一男君) 次に国営競馬						

す第一に限定しております。鉱業とか
金属精錬加工業、機械製造業、電気機
器製造業、造船業、車両製造業、航空

○岡三郎君 大体今の説明でわかりました
したが、それで重要機種類といふもの

して載せていく。年に何回か頻繁に一
応やりまして、今のお説のような線で
実行して参っておりまます。

○國三郎君 次に脱脂粉乳ですが、これは学童給食その他で、免稅は私は結構だと思うのですが、しかし政府が当初いろいろと方針を述べられました中で、国産愛用というふうなことで、国産獎励という形で、まあこれは一方においては酪農振興の問題とも結びつくと思うのですが、先般たまたま国内生産品をやったところが、八雲工場のああいったような問題で、また逆戻りするということもなると思うのですが、今後こういったような乳製品全般、これはまあ酪農振興との関連があるのでですが、こういった点について、将来の一つの見通し、考え方、われわれとしては安くいいものを入れるということには異議はないけれども、現在のように沈滞している酪農事業、こういったものも国家的に助成して大いにやらなければいかんということを言われているわけでござりますから、このように沈滞している酪農事業、このようにおきたいと思います。

○政府委員(渡邊喜久造君) 学童給食

付帯決議といふ線、これをどういうふうに具體化するかという問題と、政府の方は補助金を削減して、他の重点施策の方へ資金を回したいという考え方、あるいは見解の相違が出て参るかと思いますが、そういう点を十分考慮いたしまして、全体といたしましては、なるべく補助金のうち、多少言葉が過ぎるかもしませんが、必要な程度の非常に薄くなつたものについては、極力整理をいたして参りたい、という考え方を持っておる次第でござります。

○政府委員(渡邊喜久造君) 学童給食の脱脂乳を免稅して参りました趣旨は、今のお話にもございましたように、われわれとしまして、学童給食をできるだけ低廉にやっていきたい、こういう見地でやって参りました、現在の状態におきましては、結局所要量が三万トン程度あるのでござりますが、国内生産は恐らくまあ五千トン程度にすぎないだろう。で、この間のような問題もあったわけでございまして、今後

の問題としましては、われわれの方も

おきたいと思ひます。

○政府委員(渡邊喜久造君) 学童給食の問題が一応出ているわけですが、衆議院の方の予算審議における付帯決議が、政府の今後の方針とからんで十分御検討になると思うのですが、大蔵省としては、この補助金関係に対する復活意向といふものを、こういったもの

が、きのうのあれでは十分考慮しなければならん、とう言っておりますが、これは、いつごろまで明確にするのか、一つお答え願いたい。

○政府委員(藤枝景介君) 補助金全般

の検討は、これはもちろん予算との関係もございまして、政府がしばしば予算委員会その他で申し上げましたよう

に、大体四月の十五日ころを目途とし

てあるのでございまして、将来的にどう措置するかといふ点は、それを考へて結論を出して参りたい。ただ差し当りましては、まだその結論が出されておりませんので、現在のような法案の提案になつておる次第でございまして、閣税の場合においてもどう措置するかといふ点は、それ

を考へて結論を出して参りたい。ただかねておりませんので、現在のような法案の提案になつておる次第でございまして、閣税の場合においてもどう措置するかといふ点は、それ

この提案を申し上げました通りであります。それと補助金等について根本的な検討を加えたいという考え方では、相当将来にわたってのさらに補助金等についてどうするかいう根本的な問題も考えて、本予算とあわせて御審議をいただきたいというふうに考えておるようになります。その点はまことに御指摘の通り、あるいは三十年度について非常に政策を盛り込んだということなどは言えるじゃないかといひ御議論については、三十年度限りを考えて参りますとそういう点も出て参るのであります。が、将来全体を見渡して、補助金等の根本的な解決の際に、さらに御審議をいただきたいというふうに考えておる次第でござります。

結果になりました。安藤文部大臣の発言に対しても、あるいはそれと反対した結果が出て来たかと思いますが、私がどもいたしましては、必ずしもともと教科書無償配布ということを、党としていたというふうには考えておりませんことを御了承願いたいと思います。

○木内四郎君 今のお話は私非常に意外だと思うのですが、時の文部大臣は無償で本を配布するというようなことを言った、それは政府で言つたんじゃないというような御答弁は、私は承取できませんのであります。これ以上追及されても、あなたから御答弁にならぬことは困難だと思いますから、私の所問はこの程度にとどめておきます。

○平林剛君 私は補助金等の臨時特別に関する法律案が、十九国会ですか、これが成立したときの経緯から見まして、特にその期限を限つたということは、これはまあ特例として期限を限つたということになりますから、そういう意味では、またこれを再び四月、五月にいたしましても、延ばすといふことは、先国会における結論に対して反することになるのではないか、となると思うのですが、どうでしようか。

○政府委員(藤枝景介君) 前回の国会におきまして、この補助金等の臨時特別例が通過いたしました際における事実はまだいまお話の通りであります。本年の三月三十一日限りでこの法律を廃止して、もう一度これをどうするかということを至急に考えるべきである存するのであります。ただ前回にも申し上げましたように、この暫定算算式ということが国会の御意思であったとしている特別な事態に遭り、その他の関係で

九年度の補正後の状態を、取りあえず二ヵ月間お延ばしをいただきたいといふうふうな考え方をもちまして、これをもう一度御提案申し上げた次第であります。

なお、この臨時特例法を前回の国会において提出いたしました当時の日本の財政状態、あるいは国際收支の関係等につきまして、多少の改善はあつたといしましても、さらに相当な財政の圧縮をいたしまして、将来の経済発展の地固めをする状態であるということは、前回この法律案を提出いたして御審議を願つた当時とまだ事情は変わらない。その事情の変化もないところでありますし、また暫定予算を御審議願わなければならぬというこの現実の状態とくらみ合せまして、実は二十九年度補正後の状態を、そのままで取りえず二ヵ月だけ延ばしていただきたい、こういうことが私どもの趣旨でございます。

○平林剛君 まあ何と弁解されようとも、私はこれは政府が国会の結論といふものに反した法律案を出して来たという現実は否定できないと思うんです。しかもその理由は、選挙があつたとかということになりますが、それが一般社会に、鳩山政府は自分の行政のことを放りっぱなしで選挙をやっておつたという非難を受けている元になると思います。全般的に言いましたら、やはり私は政府としての怠慢をやはり責められなければならないと思うんです。特に今回出されました名目を見ましても、国の財政の健全化の目的から補助金について整をする必要があるから、もう少し考える時間がほしいとい

くつつけで出した国債整理基金への繰り入れに關しては、國の財政の健全化をとる建前から言えども、考え方にもよりますが、矛盾をしたように私は見受けます。特にその意味で、お伺いをしたいのであります。この国債整理基金への繰り入れに關して期限を延期するということは、もちろん金額は少いかも知れませんが、國の財政の健全化という目的からは反するのではないかですか。それは一つお考えをお聞きしたいのであります。

○政府委員(村上孝太郎君) ただいまの御質問にお答えいたします。前々回でござりますが、この提案理由説明書を政務次官にやつていただきましたあとで私が簡単に補足説明を申し上げたのでございますが、國債整理基金への繰り入れの法律と申しますものの内容は御存じのことと二つばかりございますが、いま御指摘の点は、おそらくその第一条の償還と言いますか、減債率を停止するということですが、むしろ借金を残しておくという意味において健全財政に反するのではなくが、ころうかといふ御趣旨だらうと存じます。この点について御説明を申し上げますが、実は万分の百十六の三分の一といふ償還率は、大正四年の当時におきますところの実情からはじき出されましたところの減債率でございまして、その後いろいろな経済の変化もございまして、現状におきましては、すでにこの万分の百十六の三分の一といふのは、むしろそういうふうな少額の償還をするということが不健全なのであります。これを停止いたしまして、現在行なわれておる財政法六条の剩余金の二分の

一といふもののはうが、ちよつと説明的に申し上げますが、償還を早める結論になつております。と申しますのは、剩余金の二分の一と申しますと、大体年々二百億、程度のものが剩余金の半分になつておりますが、この万分の百十六の三分の一と申しますと、大体七、八億、二十億程度のものでございまして、こういうふうな、かつての減債率をそのまま法律に残しているのが非常に怠慢である、というお叱りは受けたかも知れませんけれども、これは財政法六条の剩余金の二分の一を繰り入れます、という法律ができましたあとで、国債整理基金特別会計の根本的改正を年年政府としては考へて参つておる次第であります。その根本的な改正をいたしました際に、この法律を根本的に改正しまして、現在の実情にあつた率にいたしたいと思っております。

年度の剩余金が四百億ばかりございま
すから、その二分の一の二百億程度が
償還されるという結果になるだらうと
存じます。との二百億で、現在国債残
高が四十四、五百億ございますから、
年々二百億というベースで行けば、二
十二、三年とどうところで全部の国債
が償還できるとどうとなるわけで
ござります。国債の償還をどうしたら
いいかという問題はいろいろむずかし
い点がござりますが、わが国の現状で
は、結局毎年の償還を平準化するとい
うか、毎年々々平均的に返していくと
いう考え方方が一番大きな問題ではない
かと思ひますが、そうしますと大体四
千五百億の国債を三十年程度に償還し
ますと百五十億程度といふことになり
まして、現在の剩余金の二分の一で減
債さして行くと、うことで十分ではな
かるうかと思つておりますけれども、
この点はまあ毎年の歳出財源に圧迫を
加えないという点もいろいろと考えね
ばなりませんので、将来国債整理基金
を整理します際に、それらの諸点も考
慮いたしまして経済計画を立てたい
と、こう思つております。

応する、いわば暫定予算と表裏をなします法律案としましては、現在御審議を願っております歳入に関する時限立法と申しますものと、歳出に関するまして、そういう意味におきまして、暫定予算と表裏をなしますところの時限法を、暫定予算執行中にその円滑に資するために御審議願いたいという趣旨では、大体類似した性格を持っておる、こういう意味でございます。

○平林剛君 私の質問は大体これで終ります。

○木内四郎君 補助金整理の問題については、政務次官は、目下検討中だからということで、項目と少額についてお答えはないのですけれども、まあいまこの問題は突如として起ってきた問題であるならば、私はごもっともな点もあると思うのですが、すでに政府を相当されて数か月に及んである。これは選舉の際にもそれ以前においても、すでに補助金整理ということとは、いまの内閣あるいはその元の内閣であるところの総理の施政演説においてもその他においてもせん明されておる。それからあと數ヶ月経つておる今日、それを検討中だと言つて全然お答えにならんということは、まだお答えになり得ないということは、非常に職務怠慢ではないかと思ひますけれども、その問題はこれは別といたしまして、私が伺いたいのは、しかばあなたの方の研究対象になつておる補助金の金額といふものは、一体幾らなのか。それを対象にしてあなたの方のほうで大体どのくらいの補助金というものを整理したいというのかということを伺いたい。も

ちろん補助金の中に、継続するといふべきものがあつたら整理することはこれはいいと思ひますが、ただ漫然そういう見通し、計画的整理もなしに、補助金といふのは悪いものがあつたら整理していいだらうといふことを前提にして、それをあたかも政府の政策であるかのごとく打ち出して、しかも聞けば金額はこれから研究するのだといふのじゃ、あまりにも無責任だと思う。補助金の対象としてあなた方が考へておられる金額、さらに一步を進めて、もしできれば、あなた方が目下考へておられる項目はどんなものであるか、それによつてどれだけ補助金の削減ができるかということを知りたいと思います。

といふ補助金があれば、これは当然整理をされるべきものだと思うのです。が、そういう抽象論で、補助金は整理すべきものは整理した方がいい、整理すべきものは整理した方がいいというような、そういう抽象論で、しかばら政府はどうして補助金の整理をするということを説明したのですか。

○政府委員(鹿枝泉介君) 補助金の中には、ものによっては整理をすることを妥当であるところのがありますことを考えまして、しかもこれは相当十分な検討を経て補助金の整理をいたしましたといふことを説明しておったわけであります。先ほどの御質問にも関連いたしましてお答えしたのであります。が、政府といつしましては来月の中旬には三十年度の予算を提出いたしました。ぜひそうして御審議を願いたい、いうことでありますので、この予算でもちろん関連をいたしまして、この予算提出の時期までには結論をつけまして、そうして御審議をいただきたい、こう考えておる次第であります。

○木内四郎君 只今御答弁のように、まあ予算を出されるときは、それは整理される補助金もありましようし、場合によれば、いまのあなたの御説明によれば、全然整理されない姿で出てくるかも知れない。まあいずれにして、も、いざれかの形で出てくることは、これは当然だと思う。しかしそれにしても、昨年の暮以来補助金を整理するから整理するといふのがいいだろうといふ、そういう一般論から公約の政策を割り出されたとしたら、これは私はあ

まりに無責任だと思つる。自分たちの研究の対象になつてゐるものはどういふものだ、そのうち少くとも金額においてこのくらい整理する、できれば主な項目はこうだということを腹に持つておらないで、悪い補助金があつたら整理すればいいというその抽象論をそのままとつて、政府或いは党の公約とするということは、これはあまりにも国民を馬鹿にしたものだと思うのです。もしあなたのほうの政策が、公約した政策がみんなそんなやうなものであるならば、これは實に無責任きわまるものだと思うのですが、今日なおあなたの方の検討の対象になつておる補助金の項目はどういうものであつて、その金額はどういうものである、それだけは先ず第一に示さなければならん。しかるのちに、そのうち、どれどもこれは研究の対象になつておつて、そのうちどちらくらいのものは整理の予定であつてから補助金の整理という公約をしたじつとを言わなければ、あまりに無責任じやないかと思うのです。

黒じこに研ぎは結つたもるた 図すの量とはいづれ

整もはからなければなりません段階でありますので、はなはだ申しわけない次第であります。現在の段階においてこの項目を整理してどれだけの金額がそれで節約になる、という具体的な問題をお答え申し上げられないことを、はなはだ遺憾に存するのであります。至急にその点は調整をはかりまして、なるべく早い機会にさらに御審議の資料になりまするよう、その点のお答えができますようにつとめたいと存する次第であります。

○木内四郎君 まあ御答弁ができないならばこれは仕方がないけれども、個々の項目については、それは困難だということで、できなければ仕方がありませんが、大体の目安をどの辺の金額に置いているか。そのくらいのことを言えないで補助金を整理すると言うことは、あまりにこれは無責任だと思いません。この委員会といふものは抽象論をする委員会ではないのです。非常に具体的にまじめにやっている委員会なんですから、そのつもりで、あまり手放し無責任な答弁をしないで、何とか、おおよその目安ぐらいのことを委員の納得のいくよう説明してもらいたいと思います。御答弁がでなければまたあらためて伺うことにして……。

○小林政夫君 国首競馬特別会計法を改正する法律案の参考資料として配付された二枚目の資産負債の一般会計への引継に関する調の中で、二、三点お尋ねしたいのです。

この表に書いてあるものと、註で現金取扱いがありましたが、現金取扱いの見合ひものがあるし、見合わないものがある。たとえば日本中央競馬会納

付金というのは、もし現金で入るならば、未収債権とまでは言えないでしようが、未収金ぐらいはあくちやならんだろう。それから現金收支の中の資金前渡金というのはどういう性質のものなのか。それから資産の中で備品が二月末と四月一日と引継ぐ際には約十万円ほど残えておる。整理する特別会計で一ヶ月の間に十万円ほどの備品をととのえるというのははどういうことなのか。

○政府委員(村上孝太郎君) これは詳細には、蓄産局長もおいでになつておられますから、蓄産局長からお答えするのが適当だらうと思いますが、この前、私が補足説明をさせていただきましたときにつきの表もちょっと御説明いたしましたので、その関係から申し上げますが、最初に未収債権の問題は、二月末現在で、一番左の欄に六千五百万円と出ておりますのが四月一日一般会計へ引継見込額、この欄に七百五十万円だけ残して、あとがゼロになつておる点がどういう意味か、もう少し未収債権が残つていい筋合いのものではなかろうかと、こういう意味だと思いますが……。

○小林政夫君 現金收支とからみ合せてですね。

○政府委員(村上孝太郎君) この未収債権の六千五百万円のうちの大部部分と申しますものはこの現金收入に変つてゆくわけでございまして、この中で七百五十万円だけが依然として未収分として、これが過年度の財源でございまして、四月一日現在で一般会計へ引継がれるものでございます。その他ものは現金になりますものの中と下欄の負債のほうの利払いに充てら

れまして、その負債の利払いに充てられた残りのものが、右側の現金のほうに、約六千万円程度になりますが、それが移っていく、こういうことになつていきます。その現金になります……三億六千百万円の中から現金になりますと内訳を欄外に書いてござりますが、そこに日本中央競馬会納付金三千五百円だけが二月末現在のバランス・シートに載つて参る分でございまして、これがその次の次のページにござります中央競馬会からこの特別会計への納付金でございまして、これが二月末現在ではまだ納付されてなくて、三月以降に納付されるものでございまして、それからあとに入つてくる分でございまして、そのあと馬買却代五千七百万円等が、それが右側の債務等の償還に充てられまして、結果差引九千七百万円といふものが余りました現金として三億六千百万円に追加されて四億五千八百万円となる、こういうことになります。この備品の十万円の増加は、具体的な内容を私、存じないのでございますが、三月末までに、これは大体この前も御説明申し上げましたように、競馬監督関係の職員の備品費でございまして、これは特別会計は廃止いたしましたけれども、畜産局、あるいは農林省としての中央競馬あるいは地方競馬の監督業務は残るわけであります。その残る監督業務に必要なものとして十万円ばかり二月末現在以降においてこの監督関係に必要な備品として購入される。その具体的財源はおそらく事務予備費になると思ひますが、もし必要でございましたら、詳しく申し述べま

すが、机とか「パン」とか、机とか「す」はそぞたくさんなくなるわけです。ございませんから、必要な、たとえば計算機とか何とかが想像されるわけではなくますけれども、存続します監修業務についての必要な備品、こうしてあります。

○小林政夫君 あるいはそういうことでも必要なかも知れませんが、たかが十万円のことですけれども、物件費も節約するという建前からいって、今までの備品費六百四十二万何がしといふ備品は、そういうものが是非とも必要なものならばしようがないけれども、監督行政に使うような備品が今までになかったとも思えない。この廢止するところの仕事としてはむしろ縮小的な意味で、それからこれは会計……、民間の会計などもも業……、あなたのほうの会計とは違うのだけれども、現金収支と、この資産、負債の引き継ぎに關する調べ……、このバランス・シートがあるのだから未収金として計上すべきではないか。この現金収支と、この資産、負債の引き継ぎに關する調べ……、このものとの内容が區別されておって、中には符合するのがあるし、符合しないのがあるという書き方をしておるのはおかしいということです。その点はどうしてこういう分け方をするか。

○政府委員(村上孝太郎君) 確かに國の会計はあまり普通の企業のように合理的になつておりますが、聞くところによりますと、この未収賃權であるべき金で二月末現在の資産の中に三千五百万円が入つておらんというのは、

○小林政夫君 資金前渡金といふは。
○政府委員(村上孝太郎君) 資金前渡金と申しますのは、資金前渡官吏に付されている金のことでありまして、御承知のように資金前渡官吏に資金交付しますときに、すでに国の会計規の手続としては歳出として整理するわけであります。それが年度末になって用に充てた残額がござりますと、そこで初めて資金前渡官吏から、不用になつたものとして国に納付されるわけになりますといふことは四月の出納整理期間を経過しますといふと、資金前渡官吏から、これだけ不用になりますたというので、初めて国の資産として納付されて参ります。こういうわけでございます。

○小林政夫君 そうすると、現金收取で九千七百四十万五千九百六十九円販入が見てあるわけですね。それはこの上の表ではどこへ入っておりますか。一般会計へ引き継ぎ見込み額の欄のどこか……。

○政府委員(村上孝太郎君) この差引額のは、結局債務を支払いまして、現金として余剰となります金でござりますので、三億六千百万円にこれが足りますと、これが四億五十八百万円になるわけでございまして、この四億五千八百万円が國への納付金にな

るわけでございます。この四億五千八百万円にすでに納付されました四億七千万円ばかりのものと合算されまして、本年度の競馬関係の納付金九億二千万何がしという納付金が出てくるわけでございます。

○委員長(青木一男君) 速記停止。

〔速記中止〕

○委員長(青木一男君) 速記開始。
質疑を継続しますから、なお、おありのかたは……ございませんければ、本日はこの程度にして散会いたします。

午後三時五分散会